



製品ガイド（機種別編）読み替えの補足情報

本紙は別紙「マニュアルをお読みになる前に」に記載の『製品ガイド（機種別編）』読み替えの補足情報です。

本紙をご覧になる場合、別紙「マニュアルをお読みになる前に」と合わせてお読みください。

注1：・アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。

- ・本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、『製品ガイド（機種別編）』の「5.2 CPU」をご覧ください。

注2：インテル®バースト・テクノロジー動作時。

注3：メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。その容量は搭載されるメインメモリの容量により変動します。

注4：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
- ・本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
- ・表示する条件によってはムラおよび微小なはん点が目立つことがあります。

注5：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。

- ・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注6：容量は、1GB=1000³バイト換算値です。

注7：スリムキーボード。

注8：選択された構成により添付されています。

注9：・NTTドコモの通信サービスをご利用の場合

SIMカードスロットにLTEに対応したSIMカード(*)を装着するだけで、超高速通信が可能です（LTEエリアの一部に限りです）。(**)

LTEエリア外であってもFOMAのエリアであれば高速通信が可能です。(**)

*1：ドコモ nanoUIMカードが利用可能です。

*2：対応エリアの詳細は、ドコモのホームページでご確認ください。通信速度は、ベストエフォート方式による提供となり、エリアの通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。

エリアの詳細についてはNTTドコモのホームページをご確認ください。（<https://www.nttdocomo.co.jp/area/index.html>）

*3：無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS IIユニバーサルコネク」の契約またはNTTドコモとの回線契約およびLTEに対応したプロバイダーとの契約が必要です。

株式会社NTTドコモのサービスの名称等は、商標または登録商標です。

・KDDI(au)の通信サービスをご利用の場合

SIMカードスロットに4G LTEに対応したSIMカード(*)を装着するだけで、4G LTE(**)、WiMAX 2+の高速通信がご利用いただけます。(**)

*1：「au Nano IC Card 04 LE」のご利用となります。

*2：一部エリアを除く。

*3：4G LTEエリア内であっても電波状況によりご利用いただけない場合があります。

エリアについての詳細情報は、「<https://www.au.com/mobile/area/>」をご覧ください。「4G LTE」「WiMAX2+」は回線の混雑状況などに応じ、より混雑が少ないと判断したネットワークに接続します。

・SoftBankの通信サービスをご利用の場合

SIMカードスロットにソフトバンクのSIMカード(*)を装着するだけで、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」の超高速通信が可能です。また、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」エリア外でも「3G/ハイスピード」の通信でご利用が可能です。(**)(**)(**)(**)

*1：ソフトバンク所定のUSIMカード「USIMカード(F)」でご利用が可能です。「USIMカード(F)」からnanoサイズで取り外し装着してください。

*2：SoftBank 4G LTE、SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合(ITU)の声明に基づきサービス名称として使用しています。

*3：対応エリアの詳細はソフトバンクのホームページ（<https://www.softbank.jp/biz/mobile/network/>）でご確認ください。

*4：無線WANをご利用になるには、ソフトバンクとの通信回線契約が必要です。

裏面もご覧ください →

- 注 10：BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「バッテリーの充電電圧」を「通常電圧モード」に設定して測定しています。
また、バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
- 注 11：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリー動作時間測定法 (Ver.2.0)」
(https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html) に基づいて測定。
- 注 12：電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなる場合があります。
- 注 13：・当社測定基準によります (標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリ容量、無線 WAN/無線 LAN/Bluetooth ワイヤレステクノロジー OFF、LCD 輝度最小)。
・電源オフ時の消費電力は満充電時です。
また、電源オフ時の消費電力を 0 にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注 14：平均値のため、お使いのタブレットで質量が異なる場合があります。
- 注 15：エネルギー消費効率とは、JIS C 62623 (2014) に規定する方法により測定した年間消費電力量です。カッコ内の数値は省エネルギー基準達成率を示します。ただし、達成率が 100%を超えるものは、次のようにアルファベットによる表示語で表記しています。
A：100%以上 110%未満、AA：110%以上 140%未満、AAA：140%以上。
- 注 16：日本語 64 ビット版。